

厚生労働大臣 殿

開設者名
福井大学長
上 田 孝 典

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9 番 1 号
氏 名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福井大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 2 3 号 3 番地 電話 (0776) 61 - 3111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 ①呼吸器科 ②消化器科 ③循環器科 4腎臓内科 ⑤神経内科 6血液内科 7内分泌内科 8代謝内科 9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11リウマチ科	
診療実績 腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、リウマチ科の診療内容は内科で提供している。 アレルギー疾患内科またはアレルギー科の診療内容は呼吸器科で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 5血管外科	2消化器外科 ⑥心臓血管外科
3乳腺外科 7内分泌外科	4心臓外科 ⑧小児外科
診療実績 消化器外科、乳腺外科、内分泌外科の診療内容は外科で提供している。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科
⑥泌尿器科	⑦産婦人科	8産科	9婦人科	⑩眼科
⑪耳鼻いんこう科	⑫放射線科	13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科
				⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科	2矯正歯科 3口腔外科 ④歯科口腔外科
歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 形成外科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
41 床	0 床	0 床	0 床	559 床	600 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	263人	107人	343.0人	看 護 補 助 者	59人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	10人	4人	12.0人	理 学 療 法 士	16人	臨床検査技師	47人
薬 剤 師	46人	0人	46.0人	作 業 療 法 士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	16人	1人	16.7人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	719人	24人	735.5人	臨 床 工 学 士	14人	医療社会事業従事者	8人
准 看 護 師	0人	0人	0.0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	8人
歯科衛生士	1人	1人	1.7人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	173人
管理栄養士	9人	0人	9.0人	診療放射線技師	33人	そ の 他 の 職 員	44人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	34 人	眼 科 専 門 医	9 人
外 科 専 門 医	24 人	耳鼻咽喉科専門医	17 人
精 神 科 専 門 医	6 人	放 射 線 科 専 門 医	13 人
小 児 科 専 門 医	19 人	脳神経外科専門医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	4 人	整 形 外 科 専 門 医	10 人
泌尿器科専門医	14 人	麻 酔 科 専 門 医	12 人
産婦人科専門医	14 人	救 急 科 専 門 医	12 人
		合 計	195 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大嶋 勇成) 任命年月日 令和 3年 4月 1日

平成28年8月～令和3年3月 医療安全管理委員会委員
令和3年4月～現在 病院長 (医療安全管理委員会委員長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	443.5 人	4.6 人	448.1 人
1 日当たり平均外来患者数	879.5 人	27.5 人	907.0 人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	入院 : 745.6 剤 外来 : 28.6 剤		
必要医師数	100 人		
必要歯科医師数	3 人		
必要薬剤師数	15 人		
必要（准）看護師数	256 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	183.52m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数	10 床	心 電 計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 335.91 m ²		病床数 31 床			
	[移動式の場合] 台 数 台					
医 薬 品	[専用室の場合] 床 積 50.82 m ²					
情報管理室	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	225 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体検査自動化総合システム			
細菌検査室	68 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査システム			
病理検査室	125 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薄切装置、自動染色装置			
病理解剖室	55 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台			
研 究 室	4,686 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) リアルタイム定量PCR装置			
講 義 室	357 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	426 人
図 書 室	1,861 m ²	鉄筋コンクリート	室数	21 室	蔵 書 数	139,697 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		82.5 %	逆紹介率	69.4 %
算出根拠	A：紹介患者の数	9,600 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,334 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,484 人		
	D：初診の患者の数	13,433 人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 久	富山大学附属 病院医療安全管理部長・教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ ☒ 無	1
安川 繁博	福井県医師会 副会長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ ☒ 無	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ ☒ 無	1
草桶 秀夫	前福井工業大学 教授		医療を受ける者の立場から意見を述べるができる者	有・ ☒ 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有・無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有・無
公表の方法 福井大学医学部附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0 人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	2 人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	4 人
LDLアフェレシス療法	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0 人
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0 人
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	術中腹腔内温熱化学療法(HIPEC)	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 大腸癌腹膜転移及び腹膜偽粘液腫を対象に治療を行っている。腹膜転移以外の切除不能因子の無い症例に対して、原発巣切除、可及的播種巣切除、リンパ節郭清等を行った後に、シスプラチン、エトポシド、マイトマイシンCを混和した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を灌流している。通常の化学療法では効果がない症例でも、有効な治療効果が得られている。			
医療技術名	PET/MRI検査におけるFDGとFESの乳癌腫瘍描出能の比較	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陽性の転移再発乳癌に対してエストロゲンを用いたPET検査を施行し、ブドウ糖を用いたPET検査と比べ、乳癌腫瘍の描出に差があるか検討する。			
医療技術名	multiple gene panel 検査による遺伝性乳癌卵巣癌診断と環境要因の関連性の検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 家族性腫瘍に関連する胚細胞系列27遺伝子検査結果と、患者の環境要因の関係を検討する。			
医療技術名	TP53遺伝子変異を有する遺伝性乳癌のサーベイランスの検討	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 予後が不良なLi-Fraumeni 症候群と診断された乳癌患者を対象に、放射線を用いない検査や治療を実施して、5年生存率が改善した臨床試験に準じた治療と検査を実施し、5年生存率の改善が得られるかを検討する。			
医療技術名	乳癌手術症例の検討	取扱患者数	527人
当該医療技術の概要 当院で手術治療を受けた病期0から3の乳癌を対象に、臨床病理学的因子、治療方法、再発の有無、予後を比較検討して、患者毎に個別に治療方針を立てて、乳癌の根治治療を目指す。			
医療技術名	FES-PET/MRIによる乳癌リンパ節転移の診断	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 18F-FES PET/MRIにてエストロゲン受容体陽性乳癌の転移を診断する。			
医療技術名	FLT-PET/MRIによる骨髄不全症の鑑別	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 18F-FLT PET/MRIにて骨髄のTK-1活性を評価し骨髄不全症の鑑別を行う。			
医療技術名	11C-PiB PET/MRI によるアミロイドイメージング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 アミロイドイメージングによるアルツハイマー病診断。			
医療技術名	体質に基づく生活習慣病の個別診療	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 体質(遺伝的多様性)について遺伝子多型から各種生活習慣病の罹患傾向を解析し、予防的な指導、より効率的な診療に役立てる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	18
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	特発性拡張型心筋症	13
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	2
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	15
6	パーキンソン病	75	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	16
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウス病	1	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	30	66	IgA 腎症	11
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	17
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	28	68	黄色靱帯骨化症	29
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	6	69	後縦靱帯骨化症	70
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	25
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	38
17	多系統萎縮症	14	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	23	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	24	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	10
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	33
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	11	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	32
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	38
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	3
32	自己食食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症	12	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	11	90	網膜色素変性症	12
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	7
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	9	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	34
42	結節性多発動脈炎	0	97	潰瘍性大腸炎	65
43	顕微鏡的多発血管炎	5	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	1	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	5	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	66	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	39	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	77	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	18	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	17	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	7	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	フラウ症候群	0

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オキシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カヒロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	10	270	慢性再発性多発性骨髓炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	2
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	17

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	1	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	3
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・後発医薬品使用体制加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)	・入退院支援加算
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算1	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算1(30対1)	・排尿自立支援加算
・急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割未満)	・地域医療体制確保加算
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・看護補助加算2	・特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料3
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ウイルス疾患指導料	・薬剤管理指導料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料イ	・医療機器安全管理料(歯科)
・がん患者指導管理料ロ	・精神科退院時共同指導料1及び2
・がん患者指導管理料ハ	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・がん患者指導管理料ニ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・外来緩和ケア管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・遺伝学的検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・精密触覚機能検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・骨髓微小残存病変量測定
・小児運動器疾患指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・がんゲノムプロファイリング検査
・婦人科特定疾患治療管理料	・先天性代謝異常症検査
・腎代替療法指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・院内トリアージ実施料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・外来放射線照射診療料	・国際標準検査管理加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・がん治療連携計画策定料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・外来排尿自立指導料	・胎児心エコー法
・肝炎インターフェロン治療計画料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ヘッドアップティルト試験

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・長期継続頭蓋内脳波検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・神経学的検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・補聴器適合検査	・医療保護入院等診療料
・ロービジョン検査判断料	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・コンタクトレンズ検査料1	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・小児食物アレルギー負荷検査	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・内服・点滴誘発試験	・レーザー機器加算
・経気管支凍結生検法	・人工腎臓
・画像診断管理加算3	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ボジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・CT撮影及びMRI撮影	・手術用顕微鏡加算
・冠動脈CT撮影加算	・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
・心臓MRI撮影加算	・歯科技工加算1及び2
・乳房MRI撮影加算	・センチネルリンパ節加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・頭部MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・外来化学療法加算1	・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・無菌製剤処理料	・椎間板内酵素注入療法
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・腫瘍脊椎骨全摘術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・摂食機能療法の注3に掲げる摂食嚥下支援加算	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・がん患者リハビリテーション料	・羊膜移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・網膜再建術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・人工中耳植込術	・体外衝撃波胆石破碎術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術 V 型(拡大副鼻腔手術)	・体外衝撃波膵石破碎術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・同種死体腎移植術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・生体腎移植術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・膀胱水圧拡張術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテルの手術によるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・胎児輸血術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	
・輸血管理料Ⅰ	
・貯血式自己血輸血管理体制加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	
・定位放射線治療	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
・病理診断管理加算1	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する保険医療機関)急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
	・
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部門 : 週 6 回 病理診断部門 : 月 5 回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 20 例 / 剖検率 8.16 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抗がん薬耐性分子病態の系統的薬理解析に基づく急性白血病の新救援治療戦略の確立	山内 高弘	内科学(1)	1,300,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Survivinを標的とした骨髄腫幹細胞に対する新規治療戦略の開発	大蔵 美幸	内科学(1)	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
がん進化による治療耐性を引き起こす肝がん幹細胞様クローンの同定	中本 安成	内科学(2)	4,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
バイオメタルが誘導するタウオリゴマー形成促進機構の解明	濱野 忠則	内科学(2)	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝細胞がん微小環境におけるエイコサノイド関連腫瘍進展機構の解明と新規治療法の研究	野阪 拓人	内科学(2)	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝臓がんにおける循環腫瘍細胞検出系の確立	大藤 和也	内科学(2)	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ホモシステインによる α -シヌクレインのリン酸化、重合機構の解明	榎本 崇一	脳神経内科	1,700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
HLA分子とPD-1経路を中心とした肝がん治療における免疫学的マーカーの探索	松田 秀岳	消化器内科	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
CD4陽性キラーT細胞の走化性を誘導する新規肝がん治療法の開発	内藤 達志	消化器内科	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
PD-1抗体による腫瘍応答の統合型PET/MRを用いた多角的機能画像による検討	梅田 幸寛	内科学(3)	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪滴による心筋Gap junctionリモデリング機序の解明	鈴木 仁弥	内分泌・代謝内科	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
IgG4関連肺疾患における自然リンパ球の役割とPD-1, PD-L1の関与	早稲田 優子	呼吸器内科	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
金属による職業性喘息の新たな発症機序に関する探索的研究	門脇 麻衣子	呼吸器内科	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎疾患における酸化ストレス評価法の開発と新規治療戦略および基盤概念の提唱	岩野 正之	腎臓病態内科学	3,700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
レドックス破綻からアプローチする新たな急性腎障害の発症修復メカニズムの解明	糟野 健司	腎臓病態内科学	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸内細菌叢が産生する短鎖脂肪酸の腎保護メカニズムの解明と新たなCKD治療法の確立	三上 大輔	腎臓内科	400,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 16 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腎臓から全身へ！新たな全身疾患「IgM陽性形質細胞関連病」の疾患概念の確立	高橋 直生	腎臓内科	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
急性腎障害における短鎖脂肪酸受容体GPR43を介する腎保護作用の解明	横井 靖二	腎臓内科	900,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸内細菌由来物質である短鎖脂肪酸/GPR41を用いた新規肝細胞癌治療戦略の開発	西川 雄大	腎臓内科	1,300,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ケトン体であるβヒドロキシ酪酸を利用した慢性腎臓病の新規治療の開発	小林 麻美子	腎臓内科	900,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
心房細動アブレーション後の抗Xa阻害薬投与の意義に関する研究	茅田 浩	循環器内科学	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
前立腺癌のホルモン療法による致死性不整脈の出現に関する予測因子の解明	長谷川 奏恵	循環器内科学	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
超高密度マッピングによる術後心房頻拍の機序解明と治療への応用	宮崎 晋介	不整脈・心不全先端医療講座	800,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌における抗PROK1モノクローナル抗体による新規治療への検討	五井 孝憲	外科学(1)	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌におけるPROK2の新規治療標的因子やバイオマーカーとしての臨床応用の検討	呉林 秀崇	消化器外科	1,500,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
血小板由来内皮細胞成長因子の抗動脈硬化作用を用いた小口径人工血管開閉性向上の研究	高森 督	外科学(2)	100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト大動脈壁試料の解析からはじめる酸化ストレスを介した大動脈瘤の発症機序の解明	田邊 佐和香	心臓血管外科	1,300,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎アクアポリン分子をターゲットとした夜間多尿対策:有効かつ安全な治療を目指して	横山 修	泌尿器科学	1,800,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
microの解剖学的位置に注目した前立腺肥大症の炎症の病態の研究	稲村 聡	泌尿器科	450,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
夜間多尿の新戦略:膀胱における知覚C線維を介した尿吸収を目指して	大江 秀樹	泌尿器科	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
上皮間葉移行阻害薬は全身性強皮症の新規治療薬となりうるか	長谷川 稔	皮膚科学	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ドラッグ・リポジショニングによる全身性強皮症の新規治療薬の開発	加藤 卓浩	皮膚科学	1,300,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
炎症性皮膚疾患のバリア機能異常を反映する新規バイオマーカーの探求と臨床応用の検討	宇都宮 慧	皮膚科	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
硬化性萎縮性苔癬における細胞外基質への免疫異常を発端とした新たな癌化機構の解明	宇都宮 夏子	皮膚科	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 18 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
カルパイン阻害剤による全身性強皮症の新たな治療戦略	笠松 宏至	皮膚科	1,400,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
全身性強皮症における新たな治療:抗フラクタルカイン抗体の実用に向けて	長谷川 巧	皮膚科	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
重症下肢虚血の痛みにおける脳内ネットワークの解明	中井 國博	形成外科	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
成長期における頭蓋顎顔面骨に及ぼすレチノイン酸の役割の解析	峯岸 芳樹	形成外科	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
重症下肢虚血患者に対する交感神経反応に基づく痛みの客観的評価方法の開発	宮前 誠	形成外科	2,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
変形性膝関節症治療のための高強度小型立体固定プレート及び固定方式の開発	松峯 昭彦	整形外科	8,155,699	⑥補委	公益財団法人 石川県産業創出支援機構
ヒト肉腫幹細胞とオルガノイドモデルを用いた肉腫進展・転移メカニズムの解明	松峯 昭彦	整形外科	3,700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄障害性疼痛におけるニューロン-グリア連関解明とニューロイメージング評価の確立	中嶋 秀明	整形外科	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
手部・足部の変形疾患に対する3次元積層カスタムインプラントに関する基礎的研究	大木 央	整形外科	400,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
CD146/271陽性脂肪幹細胞の関節内直接投与による変形性関節症治療効果の検討	宮崎 剛	整形外科	1,500,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト脊柱靱帯骨化組織および遺伝性骨軟骨異常マウスを用いた疾患関連遺伝子発現解析	渡邊 修司	整形外科	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
変形性膝関節症に対するPLA cellsによる軟骨保護・抗炎症効果の基礎的研究	坂本 拓己	整形外科	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肉腫に対する温熱化学療法後の腫瘍内免疫環境の解析	出淵 雄哉	整形外科	500,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
緑内障視神経症における圧較差を介したミトコンドリア障害の解明	稲谷 大	眼科学	3,600,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
緑内障視神経症における軸索流変化を捉える画期的な眼底イメージング	稲谷 大	眼科学	1,600,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
難治性虚血性網膜疾患におけるサイトカイン依存性エピジェネティック制御機構の解明	高村 佳弘	眼科学	800,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
網膜神経節細胞バソプレシン神経の概日リズムと精神機能への生理的役割の解析	辻 隆宏	眼科	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 17 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
線維柱帯切除後になぜ白内障は進行するのか	有村 尚悟	眼科	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎における治療指針作成とその普及に関する研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	4,446,000	⑥補委	国立保健医療科学院
CD82を標的とした頭頸部癌の後発遠隔転移の克服	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
鼻粘膜上皮細胞、マスト細胞におけるdectin-1受容体の存在と機能解析	木村 幸弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,500,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
線溶系制御による好酸球性副鼻腔炎に対する新規治療法の開発	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎におけるTRPV3の機能解析と治療戦略	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
鼻腔NOに着目した好酸球性副鼻腔炎の病態解明と新規治療への応用	吉田 加奈子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
カテキニンによる血管内皮増殖因子受容体の分解機構解明と口腔癌分子標的薬治療への応用	吉村 仁志	歯科口腔外科学	1,300,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
漢方薬“ヨクイニン”とその有用成分を応用した副作用の少ない口腔癌治療法の確立	吉田 寿人	歯科口腔外科	900,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
食物アレルギーに対する経皮免疫療法とアジュバントの開発	大嶋 勇成	小児科学	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノ粒子を用いた薬物輸送システムの開発; 神経芽腫がん細胞の分化誘導療法	吉川 利英	小児科学	800,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
キレる子どもの神経基盤の解明と有効な包括的対支援システムの構築	川谷 正男	小児科	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
カテーテル関連血流感染予防のための消毒法の開発	山田 健太	小児科	1,600,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
胎児・新生児期の生体リズム評価による自閉スペクトラム症の病態解明	小坂 拓也	小児科	600,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸酸化能検査法を応用した長鎖脂肪酸酸化異常症の重症度・治療有効性判定法の確立	杉原 啓一	小児科	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
食物アレルギーに対するナノ粒子を用いた新規経皮免疫療法の開発と解析	伊藤 尚弘	小児科	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Radiogenomics法を用いた新規子宮肉腫治療バイオマーカーと治療法の開発	吉田 好雄	産科婦人科学	3,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 17 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
卵巣癌における腹水中の微量銅元素増加の意義解明と新規銅制御治療法の開発	大沼 利通	産科婦人科学	2,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
加齢による精子・卵子の妊孕能低下とミトコンドリア品質管理システムの関連	折坂 誠	産科婦人科	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Radiogenomicsに基づく進行再発子宮体癌新規治療薬とバイオマーカー開発	津吉 秀昭	産科婦人科	1,500,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脱落膜分泌因子による絨毛浸潤制御機構～ART妊娠に伴う癒着胎盤の予測～に向けて～	川村 裕士	産科婦人科	400,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
若年子宮体癌の妊孕性温存療法に対する非侵襲的治療効果判定法および抵抗性機序の解明	山田 しず佳	産科婦人科	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
身体的疼痛認知と他者疼痛共感からアプローチする自閉スペクトラム症の感性脳科学	小坂 浩隆	精神医学	4,800,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
デフォルトモードネットワークは経頭蓋直流電気刺激の抗うつ効果を予測するか	大森 一郎	精神医学	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
自殺関連行動に関連した青年期情緒障害のスクリーニングに関する総合的研究	岡田 優	精神医学	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
視線追跡装置を用いたディスレクシアの診断補助・合理的配慮支援法の個別評価の確立	三崎 真寛	精神医学	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
情動変化を呈したモデル動物における酸化ストレスの全脳的評価	水野 智之	神経科精神科	100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
特発性正常圧水頭症モデルを用いたGlymphatic systemの解析	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Hadamard-encoded ASLによる定量的脳血流評価法に関する検討	磯崎 誠	脳脊髄神経外科学	1,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳表へモジデリン沈着症ラットモデルの作成	有島 英孝	脳脊髄神経外科	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
CBB法を用いたイオンチャネルに対する麻酔薬の作用機序の解明	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
動脈磁気標識法(ASL)による新たなMRI脳機能画像の開発と臨床応用	木村 浩彦	放射線医学	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
全国の救急搬送患者の病院選定・決定までの連絡回数と現場滞在時間の関連	山田 直樹	救急部	200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
受着障害の新たな客観的診断・支援法の開発—少子化社会を克服するための戦略—	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	8,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ペアレントトレーニング効果判定のためのMRI脳計測による客観的手法の開発	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	2,300,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 18 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
シナプス膜移行異常モデルを用いた新規自閉症治療標的の検討	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	4,200,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
フリーラジカルに着目した自閉症エネルギー代謝異常の研究	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	2,600,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
子どものための診断アセスメントとサービスク改善プロジェクト	鈴木 太	子どものこころの発達研究センター	500,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
子どもの強迫症臨床アセスメント開発と普及プロジェクト	牧野 拓也	子どものこころの発達研究センター	400,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
安静時機能的MRIを用いたADHDにおける神経ネットワークと遺伝子の関連解析	水野 賀史	子どものこころの発達研究センター	700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
受着関連障害と発達障害の判別システム: 中間表現型を用いた研究	滝口 慎一郎	子どものこころ診療部	900,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳機能特性およびDNAメチル化を用いた受着関連障害の生物学的診断の確立	濱村 尚子	子どものこころ診療部	1,600,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規Epo抵抗性因子の探索と分子機序の解明: 赤芽球分化・増殖と脂質代謝の関連性	木村 秀樹	検査部	1,500,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎における真菌叢マイクロバイオーーム研究	木戸口 正典	集中治療部	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
CUX1、miR-145の両ハプロ不全によるクローン性進化獲得機序の解明と制御	細野 奈穂子	輸血部	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪由来間葉系間質細胞を用いた重度脊髄損傷治療効果の検証および治療効果機序の検討	高橋 藍	リハビリテーション部	1,500,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
仮想現実と経頭蓋直流電気刺激を用いた新たなリハビリテーションの開発	久保田 雅史	リハビリテーション部	2,600,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
難治性疼痛に対する中枢-末梢同時電気刺激の有効性のトランスレーショナルリサーチ	松尾 英明	リハビリテーション部	1,800,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝がん微小環境での免疫編集に関わるHLA-classII発現変化と制御機構の解析	平松 活志	光学医療診療部	1,000,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸酸化異常症代謝プロファイル解析による高精度診断法の確立	湯浅 光織	総合周産期母子医療センター	1,100,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
間葉系幹細胞からの前顆粒膜細胞の誘導-体外培養系での卵子獲得を目指して-	宮崎 有美子	総合周産期母子医療センター	900,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
薬剤耐性(AMR)対策に向けた抗菌薬の使用動向調査システムの開発に関する研究	後藤 伸之	薬剤部	1,700,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎の鼻ポリープにおける脂肪酸代謝解析	坂下 雅文	医学研究支援センター	900,000	⑥補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 18 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
CMLにおけるシャペロン機能を標的としたTKI耐性克服のための新治療戦略	松田 安史	がん診療推進センター	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
地域住民の救急搬送・緊急入院を視点としたサルコペニア調査研究	山村 修	地域医療推進講座	1,800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
酸化ストレス・タウの包括的PETイメージングによるアルツハイマー病進展機序の解明	井川 正道	地域高度医療推進講座	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
骨肉腫における血中循環腫瘍細胞と上皮間葉間移行の機能解析および肺転移抑制について	田中 太晶	地域高度医療推進講座	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳内分子動態解析による認知症発症機序の解明と早期診断への応用	岡沢 秀彦	高エネルギー 医学研究センター	3,600,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
全身の造血活性を可視化する統合型FLT-PET/MRIによる骨髄不全症の病態解明	辻川 哲也	高エネルギー 医学研究センター	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
高齢者急性骨髄性白血病の化学療法が可能な症例に対して若年成人標準化学療法の近似用量を用いる第II相臨床試験: JALSG-GML219試験	山内 高弘	内科学(1)	19,500,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
CBF-AML219試験遂行と成人症例登録並びにCBF-AMLにおける分子層別化マーカーの構築(臨床試験の開始と遂行、高感度MRD測定法の確立と実施)	山内 高弘	内科学(1)	130,000	補 委	国立大学法人 長崎大学
臨床試験統括と検体収集	山内 高弘	内科学(1)	130,000	補 委	国立大学法人 東海国立大学機構
抗CD33抗体による治療抵抗性急性骨髄性白血病の薬剤耐性克服	山内 高弘	内科学(1)	500,000	補 委	一般社団法人 日本血液学会
ウイルス・発がんを統合的に制御する新規B型肝炎分子免疫治療の開発	中本 安成	内科学(2)	16,900,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
次世代シーケンス技術を用いたC型肝炎の直接作用型抗ウイルス薬による治療後病態に影響をおよぼす因子に関する研究	中本 安成	内科学(2)	2,000,000	補 委	国立大学法人 山梨大学
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発	中本 安成	内科学(2)	1,170,000	補 委	国立大学法人 大阪大学
獲得免疫反応が誘導する幹細胞内HBV cccDNA治療標的分子の探索	中本 安成	内科学(2)	1,000,000	補 委	公益財団法人 大樹生命厚生財団

小計 14 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
軽度アルツハイマー型認知症を対象とする八味地黄丸の認知機能に対する有効性と安全性を確認する探索的オープン標準治療対照無作為化割付多施設共同試験	濱野 忠則	内科学(2)	279,695	補 (委)	国立大学法人 富山大学
神経変性疾患・脱髄性中枢性疾患に対するオンライン診療の実態アンケート調査	濱野 忠則	内科学(2)	330,000	補 (委)	一般社団法人 日本神経学会
フェノタイプ・エンドタイプの着目した本邦の喘息患者における3年間予後の検討	石塚 全	内科学(3)	5,500	補 (委)	独立行政法人 国立病院機構東京病院
Low-Density Lipoprotein(LDL)アフェレンシス療法の重度尿蛋白を伴う糖尿病性腎症に対する多施設臨床試験	岩野 正之	腎臓病態内科学	110,000	補 (委)	特定非営利活動法人 健康環境教育の会
高尿酸血症を合併した慢性腎臓病患者に対する積極的尿酸降下療法の有効性を検証するランダム化比較試験 Trial of intensive UA-lowering therapy in CKD patients(TARGET-UA試験)	岩野 正之	腎臓病態内科学	341,000	補 (委)	公立大学法人 奈良県立医科大学
新たに提唱されたIgM陽性形質細胞を伴った腎炎の診断基準の作成とメカニズムの解明	高橋 直生	腎臓内科	1,000,000	補 (委)	公益財団法人 ノバルティス科学振興財団
急性冠症候群に対するエベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤2剤併用療法(DAPT)期間を1カ月に短縮することの安全性を評価する研究[STOPDAPT-2 ACS:Short and Optimal duration of Dual AntiPlatelet Therapy-2 study for patients with ACS]	宇随 弘泰	循環器内科学	11,000	補 (委)	一般財団法人 生産開発科学研究所
エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤2剤併用療法(DAPT)期間を1ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究【STOPDAPT2】	池田 裕之	循環器内科	11,000	補 (委)	一般財団法人 生産開発科学研究所
前立腺がん患者の診断時背景因子と初期治療および治療経過に関する実態調査研究	伊藤 秀明	泌尿器科学	68,500	補 (委)	特定非営利活動法人 J-Cap研究会
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	長谷川 稔	皮膚科学	130,000	補 (委)	国立大学法人 熊本大学
Dermokineを標的とした悪性黒色腫の免疫賦活化治療の新規開発	宇都宮 慧	皮膚科	1,000,000	補 (委)	公益社団法人 日本皮膚科学会
全身性強皮症病態における上皮・内皮間葉転換阻害に関する検討	宇都宮 慧	皮膚科	1,000,000	補 (委)	公益財団法人 日本応用酵素協会

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
手術後の患者に対する痛み判定装置PMS-1の探索的医師主導治験の施行と、PMS-2の有用性の検討	中井 國博	形成外科	19,927,222	補 委	国立大学法人 大阪大学
治験の実施	松峯 昭彦	整形外科	520,000	補 委	国立大学法人 金沢大学
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	松峯 昭彦	整形外科	390,000	補 委	国立大学法人 岡山大学
難治性ダニアレルギー性鼻炎、難治性スギ花粉症の定義付けとガイドラインへの反映	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
分化型甲状腺癌を対象としたレンパチニブの治療効果探索のためのコホート研究	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	44,000	補 委	公益財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター
好酸球性副鼻腔炎の鼻腔内細菌叢と短鎖脂肪酸の機能解析	意元 義政	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	1,000,000	補 委	公益財団法人 MSD生命科学財団
食物アレルギー耐性獲得過程の患者から取得する血清および組換えIgG4等の、各種アレルゲン反応性への作用の解析	大嶋 勇成	小児科学	4,550,000	補 委	国立大学法人 金沢大学
シスプラチンを含む化学療法を施行される子宮がん患者の嘔気・嘔吐に対する六君子湯の効果ープラセボ対照無作為化二重盲検比較検証試験」の分担機関として自施設の患者登録を推進する。	吉田 好雄	産科婦人科学	455,000	補 委	国立大学法人 北海道大学
AIを用いた胎児と母親の機能を遠隔評価する支援システムの開発	吉田 好雄	産科婦人科学	2,090,000	補 委	公益財団法人 電気通信普及財団
自己採取HPV検査の精度の検証と至適運用をめざした日本産婦人科医会・がん部会の臨床研究	黒川 哲司	産科婦人科学	676,000	補 委	公益社団法人 日本産婦人科医会
視線計測装置及び視線計測装置用診断プログラム(GF01)による自閉スペクトラム症(ASD)の診断能に関する多施設共同試験	小坂 浩隆	精神医学	12,349,448	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ロボット麻酔システムの開発	重見 研司	麻酔・蘇生学	54,599,223	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
「非造影灌流MRIによる肝内血行動態解析法と肝硬変の新たな画像バイオマーカーの確立」のための研究助成	尾崎 公美	放射線科	1,000,000	補 委	公益財団法人 島津科学技術振興財団
「緊急外来における非ST上昇型急性心筋梗塞の最適な診断戦略の検討」に係る患者登録等データ収集業務	山田 直樹	救急部	36,850	補 委	国立大学法人 京都大学
重症化の条件について 〔コロナAI重症化モデル〕	山中 俊祐	救急部	1,170,000	補 委	福井県
閉塞型心筋梗塞の機械学習を応用したECG評価モデルの構築	山中 俊祐	救急部	1,291,000	補 委	公益財団法人 福田記念医療技術振興財団
養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築	友田 明美	子どものこころの 発達研究センター	10,679,500	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
被虐待児の脳・エビゲノムに刻まれた傷跡解析による子ども虐待予防・介入法開発	友田 明美	子どものこころの 発達研究センター	15,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
複雑性PTSD患者への簡易型トラウマ処理による治療の科学的判定 -TSプロトコールによる簡易型トラウマ処理を用いたRCT-	杉山 登志郎	子どものこころの 発達研究センター	500,000	補 委	明治安田こころの健康 財団
難治性アレルギー性鼻炎の免疫担当細胞の同定と新規治療法の開発	木戸口 正典	集中治療部	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
5番染色体高頻度決失部位遺伝子G3BP1の機能喪失による酸化ストレスを介したTP53変異獲得機構の解明	細野 奈穂子	輸血部	2,000,000	補 委	公益財団法人 内藤記念科学振興財団
国内外における医薬品等情報の提供実態に関する調査並びに情報システムのコンテンツの検討・運用サイトの改善を踏まえた提言	後藤 伸之	薬剤部	400,000	補 委	国立大学法人 熊本大学
新型コロナウイルス感染症に関する調査分析 〔新型コロナウイルス感染症に対する看護職の意識調査〕	大北 美恵子	看護部	605,000	補 委	福井県
急増する学童のアレルギー性鼻炎予防の社会実装に向けた基礎研究	坂下 雅文	医学研究支援センター	1,000,000	補 委	日本アレルギー学会

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
感染予防管理にIoT/BD/AIを活用し、WHOが推奨する手指衛生を遵守する研究開発	岩崎 博道	感染制御部	8,048,000	補 委	総務省北陸総合通信局
ダニ媒介性細菌感染症の総合的な対策に向けた研究	岩崎 博道	感染制御部	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
重症化の条件について [新型コロナウイルス感染症の重症化に及ぼす宿主側要因の解明]	岩崎 博道	感染制御部	1,200,000	補 委	福井県
自閉症スペクトラム障害患者等におけるAMPA受容体密度の検討:[11C]K-2を用いた横断PET研究	岡沢 秀彦	高エネルギー 医学研究センター	5,695,040	補 委	公立大学法人 横浜市立大学

小計 4 件
計 158 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Okura M, Ida N, Yamauchi T	内科学(1)	Clinical Significance of Inotuzumab Ozogamicin in Non-transplant Patients with Relapsed Acute Lymphoblastic Leukemia: A Report of Four Cases	Intern Med. 2020 Aug; 59(16):2047-2051	Case report
2	Okura M, Ida N, Yamauchi T	内科学(1)	The clinical significance of CD49e and CD56 for multiple myeloma in the novel agents era	Med Oncol. 2020 Oct; 37(11):103	Original Article
3	Hamano T, Shirafuji N, Yen SH, 他	内科学(2)	Rho-kinase ROCK inhibitors reduce oligomeric tau protein	Neurobiol Aging. 2020 May; 89:41-54	Original Article
4	Yamaguchi T, Hamano T, Sada K, 他	脳神経内科	Syk inhibitor reduces oligomeric tau associated with GSK3beta inactivation and autophagy activation	Alzheimer's Dement. 2020 Dec (オンライン)	Original Article
5	Matsuda H, Nosaka T, Akazawa Y, 他	消化器内科	Daily Usage of Proton Pump Inhibitors May Reduce the Severity of Critical Upper Gastrointestinal Bleeding in Elderly Patients	Gastroenterol Res Pract. 2020 Aug; 2020:7168621	Original Article
6	Akazawa Y, Saito Y, Yoshikawa T, 他	消化器内科	Efficacy of immunotherapy targeting the neoantigen derived from epidermal growth factor receptor T790M/C797S mutation in non-small cell lung cancer	Cancer Sci. 2020 Aug; 111(8):2736-2746	Original Article
7	Umeda Y, Morikawa M, Anzai M, 他	内科学(3)	Predictive value of integrated 18 F-FDG PET/MRI in the early response to nivolumab in patients with previously treated non-small cell lung cancer	J Immunother Cancer. 2020 Apr (オンライン)	Original Article
8	Waseda Y, Yamada K, Mizuguchi K, 他	呼吸器内科	The pronounced lung lesions developing in LATY136F knock-in mice mimic human IgG4- related lung disease	PLoS One. 2021 Mar (オンライン)	Original Article
9	Sonoda T, Yanagitani N, Suga K, 他	呼吸器内科	A Novel System to Detect Circulating Tumor Cells Using Two Different Size-selective Microfilters	Anticancer Res. 2020 Oct; 40(10):5577-5582	Case report
10	Kasuno K, Nishimori K, Yokoi S, 他	腎臓病態内科学	Preemptive HLA Antibody Screening Prior to Episodic Transplant Renal Biopsy Enables Early Diagnosis and Therapeutic Response in Asymptomatic Chronically Active Antibody- Related Rejection: A Case Report	Transplant Proc. 2020 Nov; 52(9):2750-2753	Original Article
11	Yokoi S, Kasuno K, Nishimori K, 他	腎臓内科	Analytical and clinical validation of rapid chemiluminescence enzyme immunoassay for urinary thioredoxin, an oxidative stress- dependent early biomarker of acute kidney injury	Clin Chim Acta. 2020 Aug; 507:271-279	Original Article
12	Shimamoto Y, Araie H, Itoh K, 他	腎臓内科	MALDI-TOFMS-oriented early definitive therapy improves the optimal use of antibiotics for Enterococcus spp. bloodstream infection	J Infect Chemother. 2021 Feb; 27(2):393-396	Original Article
13	Takahashi N, Yoshida H, Kimura H, 他	腎臓内科	Chronic hypoxia exacerbates diabetic glomerulosclerosis through mesangiolysis and podocyte injury in db/db mice	Nephrol Dial Transplant. 2020 Oct; 35(10):1678-1688	Original Article
14	Mikami D, Kobayashi M, Uwada J, 他	腎臓内科	Short-chain fatty acid mitigates adenine- induced chronic kidney disease via FFA2 and FFA3 pathways	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids. 2020 Jun; 1865(6):158666	Original Article
15	Hasegawa K, Ikeda H, Ishida T, 他	循環器内科学	A long thin stalk of a dancing thrombus might prevent a potential stroke: a thrombus mimicking a myxoma	Eur Heart J. 2020 Jun; 41(24):2336	Letter

小計 15 件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Hasegawa K, Ito H, Kaseno K, 他	循環器内科学	Impact of Medical Castration on Malignant Arrhythmias in Patients With Prostate Cancer	J Am Heart Assoc. 2021 Feb (オンライン)	Original Article
17	Shiomi Y, Yokokawa M, Uzui H, 他	循環器内科	Serum tenascin-C levels in atrium predict atrial structural remodeling processes in patients with atrial fibrillation	J Interv Card Electrophysiol. 2020 Nov; 59(2):401-406	Original Article
18	Mukai M, Miyazaki S, Hasegawa K, 他	心臓血管病 先進治療学講座	Cryothermal atrial linear ablation in patients with atrial fibrillation: An insight from the comparison with radiofrequency atrial linear ablation	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 May; 31(5):1075-1082	Original Article
19	Sekihara T, Miyazaki S, Nagao M, 他	心臓血管病 先進治療学講座	A case of outflow tract premature ventricular contractions with very distant exit sites suspected to have a single origin	J Electrocardiol. 2020 Nov-Dec; 63:41-45	Case report
20	Sekihara T, Miyazaki S, Ishida T, 他	心臓血管病 先進治療学講座	Phrenic nerve stimulation during right ventricular outflow tract pacing: A rare but possible complication	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Dec; 31(12):3330-3333	Case report
21	Sekihara T, Miyazaki S, Nagao M, 他	心臓血管病 先進治療学講座	Ultrahigh resolution electroanatomical mapping of the transverse conduction of the right atrial posterior wall in cases with and without typical atrial flutter	J Cardiovasc Electrophysiol. 2021 Feb; 32(2):297-304	Original Article
22	Miyazaki S, Nodera M, Hasegawa K, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Author's reply: Spontaneous narrow QRS complex tachycardia with ventriculoatrial dissociation	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Jun; 31(6):1565	Review
23	Miyazaki S, Hasegawa K, Mukai M, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Clinically Manifesting Air Embolisms in Cryoballoon Ablation: Can Novel Water Buckets Reduce the Risk?	JACC Clin Electrophysiol. 2020 Sep; 6(9):1067-1072	Original Article
24	Miyazaki S, Iesaka Y	不整脈・心不全 先端医療講座	Extent of Atrial Deformation in Catheter Ablation of Atrial Fibrillation	Int Heart J. 2020 May; 61(3):486-491	Original Article
25	Miyazaki S, Hasegawa K, Mukai M, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Long time-to-isolation during fourth-generation cryoballoon ablation of the right superior pulmonary vein. What should we do next?	Pacing Clin Electrophysiol. 2020 Apr; 43(4):423-426	Case report
26	Miyazaki S, Hasegawa K, Yamao K, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Mapping and ablation of clinical spontaneous perimitral atrial tachycardias using an ultra-high-resolution mapping system	Heart Rhythm. 2021 Feb; 18(2):189-198	Original Article
27	Miyazaki S, Ishikawa E, Hasegawa K, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Narrow QRS complex tachycardia with fluctuation in the morphology	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Jun; 31(6):1547-1549	Case report
28	Miyazaki S, Nodera M, Hasegawa K, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Spontaneous narrow QRS complex tachycardia with ventriculoatrial dissociation	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Apr; 31(4):988-990	Case report
29	Aoyama D, Miyazaki S, Hasegawa K, 他	不整脈・心不全 先端医療講座	Preprocedural Troponin T Levels Predict the Improvement in the Left Ventricular Ejection Fraction After Catheter Ablation of Atrial Fibrillation/Flutter	J Am Heart Assoc. 2020 Apr (オンライン)	Original Article
30	Ito H	泌尿器科学	Editorial Comment to Complete puborectalis, puboperinealis muscle and urethral rhabdomyosphincter preservation in laparoscopic radical prostatectomy: Anatomical landmarks to achieve early urinary continence	Int J Urol. 2020 Jun; 27(6):536-537	Review
31	Inamura S, Ito H, Oe H, 他	泌尿器科	Duration of smoking cessation is negatively associated with the magnitude of chronic prostatic inflammation and storage dysfunction in patients with benign prostatic hyperplasia	Int J Urol. 2020 Oct; 27(10):874-881	Original Article
32	Hasegawa M, Inoue Y, Kaneko S, 他	皮膚科学	Wound, pressure ulcer and burn guidelines – 1: Guidelines for wounds in general, second edition	J Dermatol. 2020 Aug; 47(8):807-833	Original Article

小計 17 件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
33	Utsunomiya A, Hasegawa M, Oyama N, 他	皮膚科	Clinical course of Japanese patients with early systemic sclerosis: A multicenter, prospective, observational study	Mod Rheumatol. 2021 Jan; 31(1):162-170	Original Article
34	Utsunomiya A, Oyama N, Hasegawa M	皮膚科	Potential Biomarkers in Systemic Sclerosis: A Literature Review and Update	J Clin Med. 2020 Oct; 9(11):3388	Review
35	Utsunomiya A, Chino T, Utsunomiya N, 他	皮膚科	Homeostatic Function of Dermokine in the Skin Barrier and Inflammation	J Invest Dermatol. 2020 Apr; 140(4):838-849	Original Article
36	Kasamatsu H, Oyama N, Hasegawa M, 他	皮膚科	Fatal case of pancreatic panniculitis caused by occult neuroendocrine tumor in the corresponding organ: A case report and review of the published work	J Dermatol. 2021 Feb; 48(2):237-241	Case report
37	Utsunomiya N, Utsunomiya A, Chino T, 他	皮膚科	Gene silencing of extracellular matrix protein 1 (ECM1) results in phenotypic alterations of dermal fibroblasts reminiscent of clinical features of lichen sclerosis	J Dermatol Sci. 2020 Nov; 100(2):99-109	Original Article
38	Nakajima H, Honjoh K, Watanabe S, 他	整形外科	Distribution and polarization of microglia and macrophages at injured sites and the lumbar enlargement after spinal cord injury	Neurosci Lett. 2020 Oct; 737:135152	Original Article
39	Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, 他	整形外科	Expression Analysis of Susceptibility Genes for Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament of the Cervical Spine in Human OPLL-related Tissues and a Spinal Hyperostotic Mouse (ttw/ttw)	Spine(Phila Pa 1976). 2020 Nov (オンライン)	Original Article
40	Izubuchi Y, Nakajima H, Honjoh K, 他	整形外科	Primary intradural extramedullary Ewing sarcoma: A case report and literature review	Oncol Lett. 2020 Sep; 20(3):2347-2355	Case report
41	Izubuchi Y, Suzuki K, Imamura Y, 他	整形外科	Primary Rosai-Dorfman disease of bone arising in the infantile ilium: A case report	Exp Ther Med. 2020 Apr; 19(4):2983-2988	Case report
42	Inatani M, Higashide T, Matsushita K, 他	眼科学	Efficacy and Safety of Intravitreal Aflibercept Injection in Japanese Patients with Neovascular Glaucoma: Outcomes from the VENERA Study	Adv Ther. 2021 Feb; 38(2):1106-1115	Original Article
43	Inatani M, Higashide T, Matsushita K, 他	眼科学	Intravitreal Aflibercept in Japanese Patients with Neovascular Glaucoma: The VEGA Randomized Clinical Trial	Adv Ther. 2021 Feb; 38(2):1116-1129	Original Article
44	Takamura Y, Yamada Y, Noda K, 他	眼科学	Characteristic distribution of microaneurysms and capillary dropouts in diabetic macular edema	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2020 Aug; 258(8):1625-1630	Original Article
45	Takamura Y, Matsumura T, Ohkoshi K, 他	眼科学	Functional and anatomical changes in diabetic macular edema after hemodialysis initiation: One-year follow-up multicenter study	Sci Rep. 2020 May; 10(1):7788	Original Article
46	Iwasaki K, Arimura S, Takamura Y, 他	眼科	Clinical practice preferences for glaucoma surgery in Japan: a survey of Japan Glaucoma Society specialists	Jpn J Ophthalmol. 2020 Jul; 64(4):385-391	Original Article
47	Iwasaki K, Takamura Y, Orii Y, 他	眼科	Performances of glaucoma operations with Kahook Dual Blade or iStent combined with phacoemulsification in Japanese open angle glaucoma patients	Int J Ophthalmol. 2020 Jun; 13(6):941-945	Original Article
48	Iwasaki K, Kakimoto H, Arimura S, 他	眼科	Prospective cohort study of risk factors for choroidal detachment after trabeculectomy	Int Ophthalmol. 2020 May; 40(5):1077-1083	Original Article
49	Iwasaki K, Kanamoto M, Arimura S, 他	眼科	Filtering Blebs after Baerveldt Glaucoma Implantation Using Magnetic Resonance Imaging: A Prospective Investigation	Ophthalmology Glaucoma. 2020 May-Jun; 3(3):221-224	Original Article

小計 17 件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
50	Orii Y, Gozawa M, Takamura Y, 他	眼科	Comparison of the intraocular pressure following an intravitreal triamcinolone acetonide injection for diabetic macula oedema in vitrectomised and non-vitrectomised eyes	BMJ Open Ophthalmol. 2021 Jan (オンライン)	Original Article
51	Gozawa M, Takamura Y, Iwasaki K, 他	眼科	Conjunctival structure of glaucomatous eyes treated with anti-glaucoma eye drops: a cross-sectional study using anterior segment optical coherence tomography	BMC Ophthalmol. 2020 Jul; 20(1):244	Original Article
52	Gozawa M, Takamura Y, Aoki T, 他	眼科	Computational fluid dynamics (CFD) simulation analysis on retinal gas cover rates using computational eye models	Sci Rep. 2021 Mar; 11(1):4937	Original Article
53	Morioka M, Takamura Y, Nagai K, 他	眼科	Incidence of endophthalmitis after intravitreal injection of an anti-VEGF agent with or without topical antibiotics	Sci Rep. 2020 Dec; 10(1):22122	Original Article
54	Tsuji T, Inatani M, Tsuji C, 他	眼科	Oxytocin induced epithelium-mesenchymal transition through Rho-ROCK pathway in ARPE-19 cells, a human retinal pigmental cell line	Tissue Cell. 2020 Jun; 64:101328	Original Article
55	Yoshida K, Takabayashi T, Kaneko A, 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Baicalin suppresses type 2 immunity through breaking off the interplay between mast cell and airway epithelial cell	J Ethnopharmacol. 2021 Mar; 267:113492	Original Article
56	Kanno M, Tsujiikawa T, Narita N, 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Comparison of diagnostic accuracy between [18 F]FDG PET/MRI and contrast-enhanced MRI in T staging for oral tongue cancer	Ann Nucl Med. 2020 Dec; 34(12):952-959	Original Article
57	Imoto Y, Takabayashi T, Sakashita M, 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Enhanced 15-Lipoxygenase 1 Production is Related to Periostin Expression and Eosinophil Recruitment in Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis	Biomolecules. 2020 Nov; 10(11):1568	Original Article
58	Ohta K, Yoshimura H	歯科口腔外科	Candida-Associated Cheilitis	Am J Med Sci. 2020 Dec (オンライン)	Case report
59	Ohta K, Yoshimura H	歯科口腔外科	Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw	Am J Med Sci. 2020 Sep; 360(3):316-317	Case report
60	Ohta K, Yoshimura H	歯科口腔外科	Schwannoma of the tongue	CMAJ. 2021 Jan (オンライン)	Case report
61	Yoshida H, Matsuda S, Aratani T, 他	歯科口腔外科	Collaboration with an infection control team promoted appropriate antibiotic use for third molar extraction at a Japanese hospital	J Infect Chemother. 2020 Jun; 26(6):531-534	Original Article
62	Yoshida H, Imamura Y, Yoshimura H, 他	歯科口腔外科	Induction of High Endothelial Venule-like Vessels in Oral and Cutaneous Lichen Planus: A Comparative Study	J Histochem Cytochem. 2020 May; 68(5):343-350	Original Article
63	Matsuda S, Yoshida H, Ebata K, 他	歯科口腔外科	Forensic odontology with digital technologies: A systematic review	J Forensic Leg Med. 2020 Aug; 74:102004	Review
64	Matsuda S, Yoshida H, Ohta K, 他	歯科口腔外科	Intraoral hemorrhage caused by dental calculus: two case reports	Quintessence Int. 2020 Jul; 51(7):598-602	Case report
65	Matsuda S, Yoshida H, Yoshimura H	歯科口腔外科	Orofacial soft tissues actinomycosis: A retrospective, 10-year single-institution experience	J Dent Sci. 2021 Jan; 16(1):365-369	Original Article
66	Matsuda S, Goi T, Yoshida Y, 他	歯科口腔外科	Periodontal disease in preoperative patients with digestive cancer: a retrospective, single-institution experience in Fukui, Japan	BMC Oral Health. 2021 Jan; 21(1):3	Original Article
67	Matsuda S, Miyamoto T, Yoshimura H, 他	歯科口腔外科	Personal identification with orthopantomography using simple convolutional neural networks: a preliminary study	Sci Rep. 2020 Aug; 10(1):13559	Original Article

小計 17 件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
68	Matsuda S, Yoshida H, Shimada M, 他	歯科口腔外科	Spontaneous regeneration of the mandible following hemimandibulectomy for medication-related osteonecrosis of the jaw: A case report	Medicine (Baltimore). 2020 Aug (オンライン)	Review
69	Kosaka T, kawatani M, Ohta G, 他	小児科	Low threshold to Vestibular and Oral Sensory stimuli might affect quality of sleep among children with autism spectrum disorder	Brain Dev. 2021 Jan; 43(1):55-62	Original Article
70	Kurokawa T, Yoshida Y, Iwanari O, 他	産科婦人科学	Implementation of primary HPV testing in Japan	Mol Clin Oncol. 2020 Oct; 13(4):22	Original Article
71	Kurokawa T	産科婦人科学	Is the catch-up program of HPV vaccination for Japanese adult women effective or not?	Cancer Sci. 2020 Apr; 111(4):1435-1436	Review
72	Kurokawa T, Yamamoto M, Onuma T, 他	産科婦人科学	The study protocol of the evaluation for the preventive efficacy of the HPV vaccine for persistent HPV16/18 infection in Japanese adult women: the HAKUOH study	BMC cancer. 2020 Nov; 20(1):1056	Original Article
73	Onuma T, Kurokawa T, Shinagawa A, 他	産科婦人科学	Evaluation of the concordance in HPV type between self- and physician-collected samples using a brush-based device and a PCR-based HPV DNA test in Japanese referred patients with abnormal cytology or HPV infection	Int J Clin Oncol. 2020 Oct; 25(10):1854-1860	Original Article
74	Orisaka M, Kawamura H, Yoshida Y	産科婦人科	COVID-19 testing of pregnant women in Japan	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Jan; 47(1):464	Original Article
75	Tsuyoshi H, Tsujikawa T, Yamada S, 他	産科婦人科	Diagnostic value of [18 F]FDG PET/MRI for staging in patients with ovarian cancer	EJNMMI res. 2020 Oct; 10(1):117	Original Article
76	Tsuyoshi H, Tsujikawa T, Yamada S, 他	産科婦人科	Diagnostic Value of 18 F-FDG PET/MRI for Revised 2018 FIGO Staging in Patients with Cervical Cancer	Diagnostics (Basel). 2021 Jan; 11(2):202	Original Article
77	Tsuyoshi H, Tsujikawa T, Yamada S, 他	産科婦人科	Diagnostic value of 18 F-FDG PET/MRI for staging in patients with endometrial cancer	Cancer imaging. 2020 Oct; 20(1):75	Original Article
78	Tsuyoshi H, Inoue D, Kurokawa T, 他	産科婦人科	Hyperthermic intraperitoneal chemotherapy (HIPEC) for gynecological cancer	J Obstet Gynaecol Res. 2020 Sep; 46(9):1661-1671	Review
79	Tsuyoshi H, Orisaka M, Fujita Y, 他	産科婦人科	Prognostic impact of Dynamin related protein 1 (Drp1) in epithelial ovarian cancer	BMC Cancer. 2020 May; 20(1):467	Original Article
80	Kodera T, Akazawa A, Yamada S, 他	脳脊髄神経外科学	Quantitative Analysis of the Far-Lateral, Supra-Articular Transcondylar Transtubercular Approach Using Cadaveric Computed Tomography and Magnetic Resonance Imaging	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2020 Oct (オンライン)	Original Article
81	Ozaki K, Takeshita M, Saito K, 他	放射線科	A case of focal confluent hepatic fibrosis in the patient with hepatitis C virus-related liver cirrhosis: a mimic of cholangiolocellular carcinoma	Abdom Radiol (NY). 2020 Jul; 45(7):2249-2256	Case report
82	Ozaki K, Harada K, Terayama N, 他	放射線科	FDG-PET/CT imaging findings of hepatic tumors and tumor-like lesions based on molecular background	Jpn J Radiol. 2020 Aug; 38(8):697-718	Review
83	Ozaki K, Kozaka K, Kosaka Y, 他	放射線科	Morphometric changes and imaging findings of diffuse liver disease in relation to intrahepatic hemodynamics	Jpn J Radiol. 2020 Sep; 38(9):833-852	Review
84	Ozaki K, Ikeno H, Kaizaki, Y 他	放射線科	Pearls and pitfalls of imaging features of pancreatic cystic lesions: a case-based approach with imaging-pathologic correlation	Jpn J Radiol. 2021 Feb; 39(2):118-142	Review

小計 17 件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
85	Ozaki K, Ikeno H, Koneri K, 他	放射線科	Primary hepatic diffuse large B-cell lymphoma presenting unusual imaging features	Clin J Gastroenterol. 2020 Dec; 13(6):1265-1272	Case report
86	Yamanaka S, Goldman RD, Goto T, 他	救急部	Multiple intubation attempts in the emergency department and in-hospital mortality: A retrospective observational study	Am J Emerg Med. 2020 Apr; 38(4):768-773	Original Article
87	Fujioka T, Tsuchiya K, Saito M, 他	子どものこころ診療部	Developmental changes in attention to social information from childhood to adolescence in autism spectrum disorders: a comparative study	Mol Autism. 2020 Apr; 11(1):24	Original Article
88	Fujioka T, Fujisawa TX, Inohara K, 他	子どものこころ診療部	Attenuated relationship between salivary oxytocin levels and attention to social information in adolescents and adults with autism spectrum disorder: a comparative study	Ann Gen Psychiatry. 2020 Jun; 19:38	Original Article
89	Suzuki S, Fujisawa TX, Sakakibara N, 他	子どものこころ診療部	Development of Social Attention and Oxytocin Levels in Maltreated Children	Sci Rep. 2020 May; 10(1):7407	Original Article
90	Ishida S, Kimura H, Isozaki M, 他	放射線部	Robust arterial transit time and cerebral blood flow estimation using combined acquisition of Hadamard-encoded multi-delay and long-labeled long-delay pseudo-continuous arterial spin labeling: a simulation and in vivo study	NMR Biomed. 2020 Aug (オンライン)	Original Article
91	Kidoguchi M, Yoshida K, Noguchi E, 他	集中治療部	Association between the NOS2 pentanucleotide repeat polymorphism and risk of postoperative recurrence of chronic rhinosinusitis with nasal polyps in a Japanese population	Allergol Int. 2020 Oct; 69(4):619-621	Original Article
92	Yamada Y, Kidoguchi M, (共同筆頭著者) Yata A, 他	集中治療部	High-Yield Production of the Major Birch Pollen Allergen Bet v 1 With Allergen Immunogenicity in Nicotiana benthamiana	Front Plant Sci. 2020 Apr; 11:344	Original Article
93	Kamikawa Y, Hayashi H	集中治療部	Equivalency between the shock index and subtracting the systolic blood pressure from the heart rate: an observational cohort study	BMC Emerg Med. 2020 Oct; 20(1):87	Original Article
94	Hosono N, Ookura M, Araie H, 他	輸血部	Clinical outcomes of gemtuzumab ozogamicin for relapsed acute myeloid leukemia: single-institution experience	Int J Hematol. 2021 Mar; 113(3):362-369	Original Article
95	Takahashi A, Naruse H, Kitade I, 他	リハビリテーション部	Functional outcomes after the treatment of hip fracture	PLoS One. 2020 Jul (オンライン)	Original Article
96	Kitade I, Nakajima H, Takahashi A, 他	リハビリテーション部	Kinematic, kinetic, and musculoskeletal modeling analysis of gait in patients with cervical myelopathy using a severity classification	Spine J. 2020 Jul; 20(7):1096-1105	Original Article
97	Higashi T, Tsukamoto H, Kodawara T, 他	薬剤部	Evaluation of risk factors for nephrotoxicity associated with high-dose vancomycin in Japanese patients	Pharmazie. 2021 Feb; 76(2):114-118	Original Article
98	Wakabayashi M, Sasaki M, Nakayama Y, 他	看護部	Evaluation of visceral fat using ultrasonography to predict obesity risk in young people	Keitai・Kino. 2020 Aug; 19(1):2-9	Original Article
99	Sakashita M, Tsutsumiuchi T, Kubo S, 他	医学研究支援センター	Comparison of sensitization and prevalence of Japanese cedar pollen and mite-induced perennial allergic rhinitis between 2006 and 2016 in hospital workers in Japan	Allergol Int. 2021 Jan; 70(1):89-95	Original Article
100	Ikawa M, Okazawa H, Yoneda M	地域高度医療推進講座	Molecular imaging for mitochondrial metabolism and oxidative stress in mitochondrial diseases and neurodegenerative disorders	Biochim Biophys Acta Gen Subj. 2021 Mar; 1865(3):129832	Original Article
101	Ikawa M, Okazawa H, Nakamoto Y, 他	地域高度医療推進講座	PET Imaging for Oxidative Stress in Neurodegenerative Disorders Associated with Mitochondrial Dysfunction	Antioxidants (Basel). 2020 Sep; 9(9):861	Review

小計 17 件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
102	Okazawa H, Ikawa M, Tsujikawa T, 他	高エネルギー 医学研究センター	Noninvasive measurement of [11C]PiB distribution volume using integrated PET/MRI	Diagnostics (Basel). 2020 Nov; 10(12):993	Original Article
103	Tsujikawa T, Oikawa H, Tasaki T, 他	高エネルギー 医学研究センター	Integrated [18 F]FDG PET/MRI demonstrates the iron-related bone-marrow physiology	Sci Rep. 2020 Aug; 10(1):13878	Original Article
104	Tsujikawa T, Kanno M, Ito Y, 他	高エネルギー 医学研究センター	Zero Echo Time-Based PET/MRI Attenuation Correction in Patients With Oral Cavity Cancer: Initial Experience	Clin Nucl Med. 2020 Jul; 45(7):501-505	Original Article

小計 4 件
計 104 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 1. 倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ 2. 倫理審査申請書類の作成について 3. 倫理審査の申請から委員会審査、承認まで 4. 研究計画の実施状況報告及び終了（中止）報告について 5. 重篤な有害事象及び不具合への対応 6. 倫理審査委員会に関する情報 7. 倫理審査申請に関する問い合わせ先	
③ 倫理審査委員会の開催状況	(委員会開催) 年 12 回 (委員長及び委員による迅速審査) 年 489 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 1. 趣旨、2. 委員会の設置、3. 組織、4. 申告書の提出等、5. 審査の方法、6. 審査結果の報告、7. 指導等、8. 事務、9. 雑則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 17 回
・研修の主な内容 1. 令和2年4月17日（金） ゲノム指針を踏まえた研究倫理審査～遺伝診療の立場から見たポイント～ 遺伝診療部、脳神経内科 井川 正道 先生 2. 令和2年11月2日（月） 質の高い臨床研究を計画するための考え方と手順について 医学研究支援センター 渡邊 享平 先生 3. 令和3年2月4日（木） 第1部 臨床研究を知財で社会に還元しよう 産学官連携本部 特命教授 樋口 人志 先生 第2部 臨床研究と英語論文作成の方法～一臨床医の経験から～ 不整脈・心不全先端医療講座 特命准教授 宮崎 晋介 先生 4. 令和3年2月（基礎講習） （録画した動画によるオンデマンド講習） 臨床研究推進のための基本的事項 「臨床研究を始めてみよう」 昭和大学医学部 薬理学講座 臨床薬理学部門 内田 直樹 先生 ○福井大学臨床研究講習会（名古屋大学C-CAM webセミナー） 1. 令和2年4月30日（木） (1)臨床研究の歴史と被験者保護 臨床研究における研究不正と行動規範 ・研究実施にあたって考慮すべき倫理関連事項 先端医療開発部 西脇 聡史 先生 (2)第1回モニタリング講習会 先端医療開発部 林 直子 先生	

2. 令和2年5月8日（金）

医薬品・医療機器開発

先端医療開発部 清水 忍 先生

3. 令和2年6月12日（金）

【専門トピックス】がん遺伝子パネル検査の臨床研究利活用

化学療法部 服部 先生・森川 先生・森田 先生

4. 令和2年7月15日（水）

臨床研究方法論入門

先端医療開発部 木下 文恵 先生

5. 令和2年8月25日（火）

臨床研究に関する法規制と指針

先端医療開発部 鶴田 敏久 先生

6. 令和2年9月16日（水）

臨床試験の計画と準備実施医療機関の組織と運用

先端医療開発部 中井 康博 先生

7. 令和2年10月5日（月）

(1)被験者の募集、組み込みと参加継続

先端医療開発部 安藤 昌彦 先生

(2)第2回モニタリング講習会

先端医療開発部 川影 美千代 先生

8. 令和2年10月29日(木)

【専門トピックス】臨床研究に必要な統計の基礎知識

先端医療開発部 西田 一貴 先生

9. 令和2年12月4日(金)

【専門トピックス】統計

東京大学大学院医学系研究科生物統計情報学講座 平川 晃弘 先生

10. 令和2年12月23日(水)

試験の実施

先端医療開発部 鋤塚 八千代 先生

11. 令和3年1月13日(水)

安全性入門

先端医療開発部 天野 学 先生

12. 令和3年2月10日(水)

【専門トピックス】知的財産

先端医療開発部 五十部 穰 先生

13. 令和3年3月19日(金)

品質マネジメントシステム

先端医療開発部 植田 康平 先生

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各領域（診療科）において、専門研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	143.9 人
-------------	---------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山内 高弘	血液・腫瘍内科	教授	32年	
岩崎 博道	感染症・膠原病内科	教授	35年	
中本 安成	消化器内科	教授	32年	
濱野 忠則	脳神経内科	准教授	31年	
石塚 全	呼吸器内科	教授	37年	
此下 忠志	内分泌・代謝内科	准教授	35年	
岩野 正之	腎臓内科	教授	34年	
茅田 浩	循環器内科	教授	35年	
五井 孝憲	消化器外科	教授	32年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	准教授	32年	
腰地 孝昭	心臓血管外科	教授	37年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	33年	
横山 修	泌尿器科	教授	39年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	30年	
中井 國博	形成外科	准教授	26年	
松峯 昭彦	整形外科	教授	35年	
松峯 昭彦	リハビリテーション科	教授	35年	
稲谷 大	眼科	教授	26年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	35年	
吉村 仁志	歯科口腔外科	教授	22年	
大嶋 勇成	小児科	教授	36年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	33年	
小坂 浩隆	神経科精神科	教授	23年	
菊田 健一郎	脳神経外科	教授	30年	
重見 研司	麻酔科蘇生科	教授	37年	
木村 浩彦	放射線科	教授	34年	
林 寛之	救急科	教授	35年	
今村 好章	病理診断科	准教授	35年	

（注） 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注） 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

（注） 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【放射線部門】

・研修の主な内容

MRI検査を安全に実施するために必要な知識及び検査時に注意する事項

・研修の期間・実施回数

5月21日、5月28日

・研修の参加人数

新任看護師 60名

【リハビリテーション部門】

・研修の主な内容

病棟患者に対する呼吸リハビリテーションを実施するために必要な知識

・研修の期間・実施回数

11月5日

・研修の参加人数

看護師 15名

【臨床工学部門】

・研修の主な内容

医療機器の安全使用・管理に関する研修

・研修の期間・実施回数

令和2年度中 71回

・研修の参加人数

コメディカル、看護師等 延べ4,521名

【看護部】

・研修の主な内容

シミュレーショントレーニング及び看護技術トレーニング

・研修の期間・実施回数

4月1日～12月10日 27回

・研修の参加人数

新任看護師 53名

- ・研修の主な内容
静脈注射ベーシックレベルフォローアップ研修
- ・研修の期間・実施回数
2月9日～2月22日 27回
- ・研修の参加人数
副看護師長 78名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【臨床検査部門】

- ・研修の主な内容
検査部、輸血部、病理部で取得したISO15189:2012認定維持のための品質マネジメントシステム、業務プロセスと手順、臨床検査情報システム、安全衛生（感染を含む）、倫理、患者情報の守秘義務の6項目について学ぶ。
- ・研修の期間・実施回数
令和2年度中 2回
- ・研修の参加人数
検査部、輸血部、病理部の臨床検査技師 47名

【看護部】

- ・研修の主な内容
面接技法
- ・研修の期間・実施回数
9月14日、10月23日、11月19日
- ・研修の参加人数
看護師長 21名
- ・研修の主な内容
勤務表作成について
- ・研修の期間・実施回数
9月23日
- ・研修の参加人数
副看護師長 14名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	医学部附属病院長 大嶋 勇成
管理担当者氏名	総務課長 小林 誠巳 経営企画課長 青池 正幸 医療情報部長 稲谷 大 医療安全管理部長 森岡 浩一 感染制御部長 岩崎 博道 薬剤部長 後藤 伸之 放射線部長 木村 浩彦 ME 機器管理部長 宇随 弘泰

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の第三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院部総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		看護記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		検査所見記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		エックス線写真	各診療科
		紹介状	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の第三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医学研究支援センター
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学研究支援センター
		高度の医療の研修の実績	病院部総務課
		閲覧実績	病院部総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院部医療サービス課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部総務課及び医療サービス課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	財務部経理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 機器管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理部
		監査委員会の設置状況	病院部総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院部医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	病院部総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院部総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院部総務課		
		パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学部附属病院長 大嶋 勇成		
閲覧担当者氏名	病院部総務課長 小林 誠巳		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室		
閲覧の手続の概要			
1. 諸記録の閲覧の申請を担当部署に行う。			
2. 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う。			
3. 所定の場所（主に管理棟会議室）において閲覧。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地 方 公 共 団 体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： (1) 医療に係る安全管理の基本的考え方 (2) 医療に係る安全管理の体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全確保の改善方策に関する基本方針 (5) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。） (7) 相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（(有)・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の指針に関すること。 (2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること。 (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること。 (4) その他医療安全管理の重要事項に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
・ 研修の内容（すべて）： (1) 全職員を対象に令和2年9月17日「経験したことのない医薬品副作用への対応～重篤副作用疾患別対応マニュアルの紹介～」 「妊娠と薬物治療の影響」 「妊産婦への薬物療法における注意点」 について研修会を行った。 (2) 全職員を対象に令和2年9月24日「医療ガスに係る安全管理について」「せん妄 ～病態と多職種での予防・対応・ケアについて考える～」 について研修会を行った。 (3) 全職員を対象に令和2年9月24日「診療用放射線の安全利用のための研修」「もう一度知っておきたいMRI検査の安全性」「自宅で起こりうる子どもの病気と外傷について～ホームケア指導を通して予防と対応を考える～」 について研修会を行った。 (4) 全職員を対象に令和2年10月22日「通院治療センターの安全管理」「2つのチェアマンとして伝えたいこと」「ACP の実際」 について研修会を行った。 (5) 全職員を対象に令和2年10月28日「ずれをなくせば褥瘡は減らせる！！」「情報セキュリティと個人情報保護」 について研修会を行った。 (6) 全職員を対象に令和2年10月22日及び28日「特定機能病院における医療安全管理体制」 について研修会を行った。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備（(有)・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 各部署から報告されたオカレンスレポートは、医療安全管理部にて部署リスクマネージャー並びに現場から速やかに聴き取り調査・分析を行い、原因を究明している。さらに改善を要すると判断された重大な事例については、当該診療科長に是正措置を求め、改善策の有効性を確認・検討し、実施状況を検証している。 (2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。 (3) 毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。 (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。 (5) 日々院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善のための具体的な対策を推進している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： (1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 (2) 院内感染対策に関する管理体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針 (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： (1) 感染予防対策の確立に関すること。 (2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 (3) 感染源の調査に関すること。 (4) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。 (5) その他感染対策についての重要事項に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の内容（すべて）： (1) 全職員を対象に令和2年7月15日「COVID-19対策 その①「COVID-19 60日間の奮闘 ～第1波を振り返って～」」について研修会を行った。 (2) 全職員を対象に令和2年9月17日「COVID-19対策 その②「COVID-19 第2波に備えた感染対策～標準予防策が大事だ編～」」について研修会を行った。 (3) 全職員を対象に令和2年11月20日「COVID-19対策 その③「抗菌薬の適正使用」「流行性ウイルス性疾患に対する感染対策～経路別感染対策の基本に戻ろう編～」」について研修会を行った。 (4) 全職員を対象に令和3年1月19日「排尿ケア研修会」について研修会を行った。 (5) 全職員を対象に令和3年2月3日「COVID-19対策 その④「COVID-19対策から見えてきたもの」」について研修会を行った。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 感染症発生状況は、感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたICTが日々モニタリングを行っている。また、1週間に1回程度、1ヶ月間で全病棟、患者に侵襲的な手術・検査を行う部署は2カ月で全部署を、院内巡回し、現場確認を行っている。なお、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で改善を依頼し、各部署とのカンファレンスや現場のラウンド等で確認している。 (2) 感染制御部員が実施場所を決め、ラウンドを実施している。 (3) 部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実施している。 (4) ICNが日々細菌室情報をもとに当該部署を巡回し、感染対策の確認と改善指導を行っている。 (5) 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたASTが検査データや抗菌薬使用状況を確認し、日々、感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック、抗菌薬の適正使用の推進を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 1. 経験したことのない医薬品副作用への対応～重篤副作用疾患別対応マニュアルの紹介～ 2. 妊娠と薬物治療の影響妊産婦への薬物療法における注意点	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (①・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の安全使用のための業務手順書の作成 医薬品の安全使用のための研修の実施 院内の医薬品使用状況の把握並びに安全性情報の収集・評価・必要な情報の周知 未承認薬等の使用の把握と必要性や妥当性に関する検討 未承認薬等の使用に関する情報の共有（院内への情報提供）	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 適応外使用事例：子宮頸管無力症に対するルティナス膣錠の使用、全身性強皮症に対するセルセプトカプセルの使用など ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAメディナビ、SAFE-DI（商用データベースサービス）を活用した情報収集 副作用シグナルの自動検知システム（AVS）を活用した副作用早期発見や適正使用への介入 医薬品使用状況の把握と適正使用推進を目的とした調査薬品レポートの活用	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 93 回
・ 研修の主な内容： ・ 定期研修が必要である医療機器については、研修の年間計画を策定し実施した。 ・ 新規購入の医療機器について、納品時に取扱説明を含む研修を実施した。 臨床のデモ機器やレンタル機器についても、同様の研修を実施した。 ・ 新規採用職員を対象とした医療機器の研修を実施した。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ 保守点検が必要と考えられる医療機器について、保守点検計画に基づき実施する。 ・ 機器ごとに、次に掲げる事項を記載した保守点検記録簿を作成する。 (1) 医療機器名 (2) 製造販売業者名 (3) 型式、型番、購入年 (4) 保守点検記録（点検実施者名、実施年月日、点検概要） (5) 修理記録（修理実施者名、実施年月日、修理概要） (6) その他、医療機器を保守点検した過程で得られた情報	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 令和2年度実績なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医療機器の不具合情報や安全に係る情報等など必要な情報を製造販売業者等から一元的に収集し、得られた安全情報等を医療機器に携わる病院従事者に対して適切に提供する。 ・ 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報収集に努め、病院長等へ報告する。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	①・無
・責任者の資格(①医師) 歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	②(8名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報室による国内外の医薬品情報の収集・整理(PMDA メディナビの活用、SAFE-DI の活用、文献情報等)、調剤時の疑義照会記録のレビュー、あらかじめ定義した医薬品について医師の処方と共に薬剤部に出力されるレポートを活用し状況を確認している。 病棟薬剤師からの医局、病棟等カンファレンスにおける情報提供、医薬品情報室による情報提供、さらに必要に応じてリスクマネージャー会議で周知等を行っている。 医療安全管理部門カンファレンス並びに医療安全管理パトロールにて、当該周知状況の確認を行っている。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 医薬品安全管理部会で承認した「使用承認」情報の共有、医局カンファレンス等で病棟薬剤師が知り得た情報の報告、処方薬の適応等に関する確認依頼により、対応が不十分な事例については、医師に対して必要な手続きの依頼を行うなど対応している。 ・担当者の指名の有無 ①・無) ・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (①・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： ・毎月定期的に全身麻酔下手術症例に関する IC 記載について遵守状況を確認している。 ・医療者側・患者側の同席者、患者家族の説明時の反応をカルテに記載するように指導している。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 日々診療録等の記載内容の確認を行っている。確認の結果指導が必要と判断された事項については、確認実施者から直接当該記録の記載者に連絡し指導している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 17 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 3 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 6 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ・ 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務 ・ 報告されたオカレンスレポートの調査・分析 ・ 3b以上のオカレンスが発生した場合の診療録及びインフォームド・コンセントの確認、オカレンス審議委員会で用いられる資料の作成、並びに議事録の作成・保存 ・ オカレンス審議委員会で究明された原因及び改善策等の審議結果についての当該部署への指導 ・ 各部署リスクマネージャーへの支援、連絡調整 ・ 医療安全の確保のための対策の推進 ・ 職員の医療の安全に関する意識の向上の確認 ・ 手術時静脈血栓塞栓予防策実施、中心静脈カテーテル留置における合併症、静脈血栓塞栓予防行為が行われなかった入院患者の静脈血栓塞栓症のモニタリング実施 ・ 院内医療安全パトロールを実施し、医療安全の確認事項シートを用いて職員の医療安全の認識を確認している。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 3 件）、及び許可件数（ 3 件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ） ・ 活動の主な内容： ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否決定に関すること。 ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供後の確認に関すること。 ・ その他高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（43 件）、及び許可件数（44 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否決定に関すること。
 - ・当該未承認新規医薬品等を使用した症例についての確認に関すること。
 - ・その他未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 245 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 48 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・影響レベル 3b 以上のオカレンスレポート並びに死亡退院報告は、速やかに病院長に報告している。報告状況の確認として、死亡退院報告については、医療安全管理部が全ての死亡退院患者の診療記録を点検し、当該主治医からの報告状況を確認し、報告されていない場合には当該診療科に適切に報告するよう指導している。また、オカレンスレポートについては、多職種から報告されており、他部署で発生したオカレンスについても関わりのあった他部署からの報告があるため医療安全管理部で発生状況が把握でき、報告すべき職員が報告していない場合には、適切に報告するよう指導している。
 - ・部署リスクマネージャーに対して、オカレンス報告の意義、部門リスクマネージャーの責務について指導している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：富山大学附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：金沢大学附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
 - ・令和 2 年 10 月 26 日（月）に実施

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「患者相談窓口」を設置し、患者やその家族からの医療安全に関する相談に適切に応じる体制を確保している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全職員を対象に令和2年10月22日及び28日「特定機能病院における医療安全管理体制」について研修会を行った。（e-learning実施）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・管理者：令和2年12月10日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修（5時間）」受講
- ・医療安全管理責任者：令和2年11月25日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修（5時間）」受講
- ・医薬品安全管理責任者：令和2年12月16日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修（5時間）」受講
- ・医療機器安全管理責任者：令和2年11月11日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修（5時間）」受講

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

品質ISOに関する審査を、BSI グループジャパン株式会社より半年に一度受審し、認証を継続している。

最初の認証取得日 平成15年9月10日

最新の更新日 令和3年8月11日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

福井大学医学部附属病院ホームページに掲載

・評価を踏まえ講じた措置

3年ごとの更新審査及び半年ごとの継続審査を受審し、提起された改善事項等について随時是正処置を行っている。その中で軽微な不適合として提起された事項に関しては、審査後1ヶ月以内に審査機関に是正処置計画書を提出し、承認を受けた上で是正処置を行っている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 1. 医療安全管理業務に関する知見・経験 医師免許を有する臨床研修等修了医師であり、かつ、特定機能病院における医療安全に関わる業務の経験と患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有している者 2. 病院の管理運営に必要な能力 診療、教育、研究という大学病院のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を有するとともに、多職種で構成される病院職員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う優れたリーダーシップを発揮できる者 3. 病院の経営に必要な能力 医療を取り巻く様々な外的変化に適切に対応し、医学部附属病院の安定的財政基盤を確立して、病院経営を担う能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 公表の方法 福井大学医学部附属病院ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ 有 ☐ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 公表の方法 福井大学医学部附属病院ホームページに掲載				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
安田 年博	福井大学理事	○	病院長候補者選考会議細則第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	☒ 有 ☐ 無
松木 健一	福井大学理事		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	☒ 有 ☐ 無
内木 宏延	福井大学医学部長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第2号に基づく役職指定者	☒ 有 ☐ 無

定 清直	福井大学医学科(共通系・基礎系)教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第3号に基づき選出	有・無
山内 高弘	福井大学医学科(臨床系)教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第4号に基づき選出	有・無
長谷川 智子	福井大学看護学科教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第5号に基づき選出	有・無
大北 美恵子	福井大学看護部長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第6号に基づく役職指定者	有・無
池端 幸彦	福井県医師会長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第7号に基づき学長が委嘱する学外の有識者 (医学・医療について豊富な経験と高い識見を有する者)	有・無
吉田 真士	株式会社福井新聞社代表取締役社長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第7号に基づき学長が委嘱する学外の有識者 (福井県の諸事情や課題等に精通し、報道関係者として、豊富な経験と高い識見を有する者)	有・無

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有 ☐ 無	
・合議体の主要な審議内容 病院に関する規則等、決算及び予算配分、経営方針、概算要求事項、 診療教授等の称号付与 ・審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は構成員及び陪席者から、所属職員等に周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・公表の方法 福井大学規程集 (公開用) ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (☐ 有 ☒ 無)			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大嶋 勇成	○	医師	病院長
山内 高弘 ほか 30 名		医師	診療科長等
後藤 伸之		薬剤師	薬剤部長
五十嵐 行江		看護師	看護部長
安岡 浩憲		事務職員	病院部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（**有**・無）
- ・ 公表の方法
福井大学規程集（公開用）ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
 - 福井大学医学部附属病院規程
第 3 条 2 項 病院長は、病院の管理運営をつかさどり、所属職員を監督する。
 - 福井大学医学部附属病院副病院長に関する要項
第 4 条 副病院長は、病院運営委員会の構成員の中から病院長が指名し、学長が任命する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は、病院長の職務を補佐する。
副病院長の担当：医療安全、教育、研究、診療、経営、看護
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修（2020.12.10 主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					①・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： ・ 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の業務状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。 ・ 必要に応じて、監査の結果に基づき、病院長に対し医療安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。 ・ 監査結果及び意見表明を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（①・無） ・ 委員名簿の公表の有無（①・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（①・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（①・無） ・ 公表の方法： 福井大学医学部附属病院ホームページに掲載						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
長島 久	富山大学附属 病院医療安全管理部長・教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1	
安川 繁博	福井県医師会 副会長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1	
吉川 奈奈	杉原・きっかわ 法律事務所		法律に関する識見を有する者	無	1	
草桶 秀夫	前福井工業大 学教授		医療を受ける者の立場から意見を述べるができる者	無	2	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部統制システム運用規則に基づき、内部統制システムの整備及び運用を推進し、その状況を把握し、重大な問題が発生した場合又は発生のおそれがある場合には、必要な緊急措置及び是正措置を執る。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 公表の方法

福井大学規程集（公開用）ホームページに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 (役員会) 毎回、病院長が出席し、病院の経営状況や病院の取組等を説明している。 (病院運営諮問会議) 病院長の諮問に応じて、経営等に関する病院運営の重要事項、病院の診療、教育及び研究に関する重要事項について審議し、病院長に対して助言又は勧告を行う。 ・ 会議体の実施状況 (役員会 : 年 11 回、病院運営諮問会議 : 年 2 回) ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 (☒ 有 ☐ 無) (役員会 : 年 11 回、病院運営諮問会議 : 年 2 回) ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・ 公表の方法 福井大学規程集 (公開用) ホームページに掲載			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称 : 福井大学医学部附属病院運営諮問会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
安田 年博	福井大学理事	○	
相田 俊夫	大原記念倉敷中央医療機構 代表理事副理事長		有 ☒ 無
池内 昭彦	福井放送株式会社 代表取締役社長		☒ 有 ☐ 無
池端 幸彦	福井県医師会長		有 ☒ 無
川田 達男	セーレン株式会社 代表取締役会長 兼最高経営責任者		☒ 有 ☐ 無
高山 一夫	京都橘大学現代ビジネス学部 教授		有 ☒ 無
林 篤志	富山大学附属病院 病院長		有 ☒ 無
松村 理司	医療法人社団洛和会 総長		有 ☒ 無
山口 明夫	福井医療大学 学長		有 ☒ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無） ・ 周知の方法 必修研修会で周知している。オカレンス報告システムのトップページに、情報提供受付窓口を掲載している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 1. 病院公式ホームページの公開 2. 情報誌「フロンティア」の発行・地域への配布（2回/年） 3. 「病院のご案内」の発行・地域医療機関への配付（1回/年） 4. 福井街角放送による「福大病院まちかどラジオ」の番組内（約10分）で病院スタッフが医療情報を発信（2回/月） 5. 「大学病院がわかる本」を発刊し、県内主要書店及び院内売店で販売 その他、地域医療機関、図書館、公民館等への配付 6. 地域医療連携部看護師、ソーシャルワーカー及び事務職員が、各診療科における得意な診療のリーフレット等を持参して、福井県内及び石川県加賀地区の医療機関を訪問して、本院の情報提供を行っている。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により直接訪問できなかった連携保険医療機関については、テレビ会議システム（ZOOM）を用いた連携を行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 1. がん診療推進センター（各診療科）がんサージカルボードの実施 2. 歯科の周術期における口腔機能の管理（歯科口腔外科と各診療科） 3. 精神障害者における身体合併症の管理（精神科と各診療科） 4. 脊椎脊髄外科ユニット外来の設置（脳神経外科と整形外科） 5. 小児外科の設置（心臓血管外科と小児科） 6. フットケアチームの設置（形成外科、心臓血管外科、リハビリテーション部など）	